

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070900875		
法人名	社会福祉法人 福岡愛心の丘		
事業所名	グループホーム 愛心（北棟・南棟）		
所在地	〒812-0858 福岡県福岡市博多区月隈6丁目16番11-1号 (電話) 092-503-9008		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果確定日	令和2年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護理念「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」をスタッフが理解し実践している。施設は純和風な作りをしており、居室は畳部屋で高齢者の方が心地よく生活できるよう環境を整えている。スタッフは、ご利用者様本位のサービスを提供することを目標としており、日常生活においてはご利用者様の個々のペースを把握し、起床・食事・入浴時間において固定せず、可能な限り希望通りのサービスが提供できるように配慮している。また、ご利用者様が退屈しないようにレクリエーションや行事に力を入れており、ご家族をお招きしての感謝の日会や敬老会等実施し、ホームでの生活が楽しいものとなるよう取り組んでいる。その他、施設全体でも地域交流にも力を入れており、毎年開催される夏祭りや定期的に開催しているサロンでは、地域方にお越しいただいて、地域に貢献できる施設を目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年10月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市内を見渡せる高台に位置し、同じ敷地内には同法人の特別養護老人ホームやケアハウスがあり、渡り廊下によってつながっている。
2ユニットの事業所は、リビングフロアを共有し、広くゆとりのある空間で食事や談笑をすることができる。居室は和室であり、すべての部屋に畳が敷かれ、タンスや飾り棚を持ち込み、自宅のような雰囲気である。
理念「楽しく・美しく、いつまでも地域と共に」にあるように、楽しく、和気あいあいとした事業所であり、職員は一丸となって理念の実践に取り組んでいる。事業所の課題も職員が共有しており、解決に向けて前向きに取り組む姿勢がある。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の介護理念を掲げている。スタッフは毎日申し送り時に介護理念を暗唱している。また、理念を元に昨日実施した利用者様との関わりを報告してもらっている。スタッフ同士良い刺激となっており、理念を意識しながら日常業務に取り組んでいる。	事業所には「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」といった独自の理念があり、職員に浸透している。毎朝の朝礼時に唱和し、前日の支援が理念に沿っていたかを毎回振り返って確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人として毎年開催する夏祭りや地域の施設や病院と協力して定期的に開催しているサロンでは沢山の地域の方にお越しいただいている。敬老会には近隣の保育園や幼稚園の園児の来訪があり、歌や遊戯などでご利用者様と交流している。また、法人として地域の運動会に参加している。	法人単位で町内会に加入しており、事業所が主催する敬老祝賀会や秋祭りには地域住民も参加している。また、2か月に1度、「まごころサロン」を同地域の介護施設、病院とで共同で運営しており、カフェや地域の企業も参加しての物販コーナー、ボランティアの協力によるハンドマッサージやマニキュア等、様々な催しを企画し実施している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として介護相談センターを設け、地域の方が認知症を含めた高齢者介護全般について相談できる場を設けている。また、地域の施設や病院と協力して開催しているサロンでも相談を行えるようコーナーを設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の活動や取組、ご利用者様の状況について報告している。その中で、委員の方からのご意見やアドバイスをいただき、グループホームのサービスの向上へ繋げているが、ご家族様からの意見が少ないために発言しやすい雰囲気作りが必要だと感じている。	運営推進会議には、利用者、家族の他に地域包括支援センターや保護司、病院連携室、民生委員等が参加している。事業所の状況報告を始め、非常災害の際に、事業所が地域住民に対して対応できる事、避難場所の提供や臨時の入所、空床状況の案内等の説明を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの方に参加していただいている。事業所の状況を報告したり、地域の方の困った事例を相談している。施設の夏祭りや敬老会にも出席いただき日頃から交流を図っている。	事業所は運営推進会議以外でも、何か相談があれば区の担当者に随時相談している。行政や老人福祉施設協議会が主催する行事に、積極的に参加し情報交換や交流を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設方針で身体拘束は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し、スタッフが閲覧できるようにしている。マニュアルは定期的に見直し、話し合いしている。施設内にて定期的に職員研修も行われており身体拘束について学ぶ場を設けている。日中、玄関の施錠は行っていない。居室施錠が必要なご利用者様にはご家族へ説明し同意を得て、ケアプランに反映させている。	事業所の玄関は日中施錠されておらず、自由に出入りができる。その他の身体拘束も行わない方針である。職員は利用者の外出傾向を把握し、声かけや外出に同行する等して対応している。身体拘束に関する研修は、外部研修を受けた職員が、法人の職員連絡会にて報告し、その後には事業所の中で伝達の研修会を行っている。	居室施錠については、短時間でも、施錠しない取組を検討し、実践して欲しい。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフは施設内の職員研修にて高齢者虐待防止について学ぶことができる。万が一、スタッフが虐待へと繋がる対応を発見した場合は迅速に対応している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフは施設内の研修において成年後見制度・日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けている。入居契約時には成年後見制度についてご説明を行っている。また、家族からの希望があれば、申請手続きに関して支援、協力をしている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用説明は、利用開始時の契約の際に行っている。利用相談があった場合は、速やかに法人本部と連携し、相談窓口へつなぐ仕組みがある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項・契約内容について読み合わせを行っている。一項目ずつ十分時間をとって説明を行っており、説明不足がないように配慮している。また、不安や疑問などがなく確認している。長期にわたる利用での不安や料金改定の説明での疑問は、ご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なサービス担当者会議や運営推進会議などにて、ご本人様やご家族様から意見を聞く機会を設けている。また、面会時においてもコミュニケーションを取りながら要望がないかお聞きしている。	利用者からの食事に対しての希望には、利用者と一緒に買い物に行き、利用者を選んで買ってもらったり、製作に使う色えんぴつが欲しいといった希望にも、利用者を選んでもらうようにしたりと日常的な利用者の希望にも随時対応している。ご家族には、毎月、担当からの手紙や行事の案内、新聞、写真を郵送し、利用者の状況がよくわかるように工夫している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで職員が意見を述べる場を設けている。その他、希望に応じて意見を聴く機会を設け日頃より業務改善を図っている。また、年に一度職員に対しアンケートを実施しており意見や提案を聞く場を設けている。	外部評価の自己評価は職員で話し合いを行い、管理者が意見をまとめている。管理者は日頃よりコミュニケーションをとることを心がけ、職員からの意見が上がりやすいように配慮している。設備や備品の配置、変更、購入など、利用者を第一と考え危険のないように意見や提案を積極的に行うことができている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職員と労務担当者が個別に面接する機会を設けている。日頃から職員がやりがいをもって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、個別面接にて決定しており年齢や性別などの制限は設けていない。また、職員ひとりひとりの能力や経験に合わせ積極的に外部研修に参加する機会を設けている。	職員採用では、性別や年齢で判断していない。定年年齢はあるが、継続可能であり、以降は1年毎の更新となる。 年に2回法人代表者の面接があり、人事考課制度も導入・運用されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の研修にて、人権・接遇等に関する勉強会を定期的に開催している。また、日頃よりご利用者様に対する言葉遣い等について気を配るよう促している。	事業所からの外部研修参加以外でも、法人全体で外部の研修に参加する機会を設けており、研修参加者は、職員連絡会にて報告することで、事業者以外の職員が参加した研修内容もフィードバックできる仕組みがある。人権に関しても、高齢者に限らず様々な人権問題を研修で学ぶ機会があり、伝達研修が行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員勉強会や施設内で委員会を開催している。職員の能力や経験に合わせてグループホーム内での係や委員会の担当を任せている。また、外部研修に参加し、スキルアップの機会を提供している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修に参加させたり、近隣の病院や施設と協力して開催しているサロンにて同業者と交流する機会を設けている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず面談を行い、ご本人様より希望や不安についてお聞きしている。また、不安については、特に注意し声かけ方法など配慮している。サービスを安心して開始していただけるよう信頼関係構築に努めており、スタッフ間でも情報交換を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族様と面談を行い、不安や要望などお聞きしている。ご家族様とよく話し合いを行い、信頼関係の構築に努めるとともに、当施設がどのような施設であるかを理解していただくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご本人様やご家族様との面談の中で、どのような生活を望んでいるのかを把握するよう努めている。その中で、当施設で提供可能なサービスについて説明し納得された上でご入居いただいている。ご本人様やご家族様の希望するサービスが提供できない場合は、他の事業所を紹介する場合があります。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご本人様の力を借りながら、食器拭きや野菜の皮むき、洗濯物たたみなどお願ひし共に生活している。スタッフはご本人様の思いを尊重しながらひとりひとりに合った個々の力を大切に支援するよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感謝の日会や敬老会などの行事時に、ご家族様を招待したり、可能な場合はご家族様に外出支援への参加をお願いしている。面会時や毎月担当者からご家族様へご利用者の近況報告や写真を送ったりしてご家族様との情報共有に努めている。携帯電話をお持ちの方は捜査の支援や手紙をいただいた際は返信の支援をしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や行きつけの美容室などについて、ご本人様やご家族様の希望を優先している。また、外出の希望があれば実現できるように対応している。	利用開始時には、本人や家族から馴染みの人や場所を聞き取り、アセスメントを行っている。また、在宅ケアマネジャーの情報をもとに把握している。以前の友人に手紙でやりとりしたり、携帯電話で直接話をしたりする関係が継続されている。利用者の友人が、馴染みの美容院に連れていくこともあり、地域との関係継続を支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、日頃からご利用者様の人間関係を把握し、ご利用者様間のトラブルを未然に防ぐように努めている。また、レクリエーションなどを通してご利用者様同士で応援などの声かけが行えるような雰囲気作りをしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のために退所された方で、併設された特養への入所希望があればご案内している。特養へ入所された方については、仲の良かったご利用者様とスタッフが特養を尋ねたりして交流を図っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフは、日頃よりご本人様やご家族様との会話の中で希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が送れるように配慮している。また、外出の希望がある場合は、ご家族様と相談し個別支援にて対応している。把握が困難な方の場合、ご家族様からの情報や入居前のサービス事業所からも情報を得ている。	「本人が大切にしてきた物や事柄」、「趣味・嗜好」、「本人の希望」、「家族の希望」の記載欄のある書式によりアセスメントを行っている。ご本人との日々の関わりやご家族との会話などから、ご本人の希望や意向を聴き取っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフはご本人様やご家族様からの情報やご利用者様同士の会話を参考にすると共に、日頃よりご利用者様ひとりひとりの生活歴や趣味・好みなどの情報収集に努めている。また、スタッフ同士、情報共有に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは日頃よりひとりひとりの生活リズムを理解し尊重している。毎日のバイタル測定や細かな表情を気かけ様子観察を行っている。体調変化がある場合は、主治医へ相談しており連携を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは、計画作成担当者や担当スタッフだけでなく他のスタッフからも幅広く意見を募り行っている。意見をもとに担当者会議にてご本人様やご家族様の意見を受け、ご本人様が安全にかつ安心して希望する生活が送れるための介護計画の作成に努めている。	日々、職員から聴き取りし物をまとめてモニタリングノートを作成している。モニタリングノート、それまでに把握できたご本人やご家族の思い等に基づいてケア会議を行い、ご本人の課題として上がってきた物を担当者会議でご本人、ご家族を交えて介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、キーワードを基に日常の様子など細かい点について、ご本人様の言葉も記入している。また、記録だけでは伝わらない点については、毎日申し送りをし、口頭にて伝達している。問題点があればその都度話し合いを行い、解決するようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に面会時間を設けているが、時間外の面会についても柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の馴染みの病院や薬局を把握し、入居後も引き続き利用できるように支援している。入居したことにより地域との関係が途切れないようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、ご本人様やご家族様に意向を伺い希望を尊重している。それぞれの主治医と連携をとりながらご利用者様の健康を図っている。また、訪問歯科回診も行っている。	入居者のかかりつけ医療機関一覧表が整備されている。家族同行での受診時には診療の手助けとなるよう、経過記録を家族に貸し出している。訪問診療を受けている入居者については医療機関からの診療報告を申し送りファイルに綴じ込んで、職員間に周知させている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホーム内に看護師は配属されていないが、日々の状態で疑問に感じた場合や急変時の対応・感染症の予防など、必要な場合は併設の特養の看護師に相談し助言を受けている。また、スタッフは訪問診療のかかりつけ医の看護師と連携をとりひとりひとりの健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した場合、定期的に病院を訪れ看護師やソーシャルワーカーから話を聞き、治療の経過やご利用者様の状況などについて情報を得ている。また、スタッフは日頃の受診付添の中から医師や看護師との関係作りにも努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学・入居希望の問合せや入居契約時に施設で出来る事とできない事についてご本人様やご家族様に必ず説明し納得していただいている。重度化した場合は、主治医に相談し連携を強化すると共にスタッフ全員が情報を共有している。万が一、当施設で生活が続けられなくなった場合、他施設や病院と連携をとり受け入れ先を探している。	重度化・終末期に向けた方針は、契約書、運営規程に明記してある。毎夕、終礼時の申し送りで、その夜の実観察者、要注意点、緊急時連絡先について夜勤者に口頭で申し送っている。重度化した場合の対応についてはかかりつけ医の指示に従って、家族と連携しながら対応している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは対応について理解している。施設内にて定期的に研修があり学ぶ機会を設けている。各項目でマニュアルを作成し、定期的に見直しを行っている。感染対策用の備品は、すぐに取り出せる場所に置いており、点検をするように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害対策について施設内にて研修があり学ぶ機会を設けている。また、当グループホームにて火災訓練を実施している。	法人内の「非常時対策委員会」に於いて、災害の種類に応じた避難場所・避難経路について検討されたものがマニュアル化されている。ハザードマップ上でも土砂災害区域とされており、より善い対策について検討が進められている。非常用品は、2本の渡り廊下で結ばれている特養の保管庫に備蓄されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で声かけなどについて、個人の気持ちを尊重しプライバシーの確保に努めている。また、個人の資料はカギのかかるロッカーで保管している。	排泄や入浴に関するチェック表はフロアからは目に付かない事務所に貼られている。トイレはフロアからは目隠しされた位置にある。面会簿は個人別に記入するカード形式で、職員が管理し、面会者に記入を依頼している。ご家族との面談は相談室で行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様とのコミュニケーションをとりながら、ひとりひとりの想いを引き出すように努めている。スタッフはオープン・クローズドの質問をしながら、ご本人様が自己決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を考慮しながら、ご本人様の希望にできるだけ副えるように心がけている。また、各場面の担当者を決め、コミュニケーションをとりながら、より細かな支援が行えるように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や身だしなみなどは、居室や別室をご利用していただいている。購入時は、ご本人様の使い慣れた化粧品を使用していただいている。美容室でのカットが難しい方は、スタッフが支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に野菜の下処理（皮むきやたねとりなど）や片づけなどを行っている。また、季節感を感じていただけるようメニューを工夫したり、個々に合わせたメニューや使いやすい食器を使用し食べやすさに考慮している。スタッフは、ご利用者様と一緒に食事をしている。	入居者の希望を受けて、フロアの壁に献立表を貼り出してから、献立表を見ての会話が聞かれるようになった。献立は職員が立てているため、日頃の会話等から献立を考えたりと、自由度の高い献立となっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は不足しないように、毎食チェックし把握している。不足している場合などは、主治医に相談しながら補助食品やご本人様の好みに合わせ提供するように努めている。個人によって水分制限のあるご利用者様はその方に合わせた量を把握し支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、介助を行っている。義歯については、就寝前にお預かりし洗浄を行っている。また、週1回の訪問歯科回診があり、相談しながら口腔内の清潔に努めている。また、歯科医の指示により仕上げ磨きを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄習慣を把握し、ご利用者様がストレスなく排泄が行えるように声かけ、見守り、介助をしている。介助の際は、出来るだけ残存機能を活かし、自立に向けた支援を行っている。	ご本人の排泄パターンにより声掛けを行い、必要に応じ案内している。トイレには24時間照明が入っている。介助する際には、できるだけご本人の動作を促しながら支援している。トイレ内には、寒い時期には人感センサー式の暖房器具を設置している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、スタッフ全員で確認している。便秘が続かないよう水や牛乳などの水分を多めに摂取していただくよう声かけしている。また、便秘が続いていた場合は、主治医に相談するなどして改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人様の体調を考慮しながら入浴を行っている。拒否がある場合は、声かけの方法や時間帯、スタッフの交代など工夫し入浴していただけるよう努めている。	入浴を拒否される方には、無理強いをせず、他の日にお誘いする等して、最低でも週1日～2日は入浴できるようにしている。浴室の窓からは季節の花々が楽しめる。また季節のお風呂（ゆず湯や菖蒲湯）、入浴剤を使って雰囲気を変えた入浴を楽しんでもらっている。寒い時期にはエアコンで暖房している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様も体調に考慮するとともに、希望に副って休憩していただいている。夜間不眠の訴えがあった場合は、傾聴を行いフロアにてスタッフとご一緒に過ごしていただいている。また、夜間の不眠が続き、ご本人様の不穏につながる場合は、主治医と連携をとり支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は、書面と口頭にて申し送りを行っている。また、変更の情報も共有するよう努めている。体調の変化には十分注意し、変化がみられた場合は主治医に相談し、薬の調整などを行っている。また、薬に対して拒否がある場合は、主治医や薬局へ相談し錠剤を粉砕して服用していただいている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	片づけや野菜の下処理などの料理や散歩、歌など毎日の生活が退屈にならないように配慮している。また、体操・生花・陶芸などの教室を催し趣味活動を続けていただけるよう支援している。役割として食器拭きや全体で使用するエプロンやタオルたたみなども取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との病院受診での帰りに買物に行かれたり、お墓参りやご家族との外食などご家族と一緒に外出されている。	現在はご家族の協力を得て、散歩や買い物、外出に連れ出して貰っている状況である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお預かりしているが、ご本人様が希望された場合は、ご家族に紛失などの危険があることを説明し了解を得たうえでお金を所持していただいている。お金の認識が難しい方は、事故の危険もありご家族に説明しお預かりするようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ご家族様やご友人様に電話をかけていただいている。また、携帯電話をご使用の方については、使用時の支援を行っている。年始には年賀状を出していただくよう支援しているが、年始以外にもご家族やご友人の方からお手紙や贈り物が届いた際は、お礼の電話やお手紙をお出しいただけるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのディスプレイに季節感を取り入れて心地よく過ごしていただけるよう配慮している。また、テレビやCDの音量や室温、光など細やかな部分についてもストレスとならないように気を配っている。トイレは共用で気持ちよく使用できるように清掃にも力を入れている。	屋内は全体に茶色系の色で統一されており、またドアは全て引き戸になっているため、落ち着いた和風の雰囲気となっている。廊下の両端、真ん中付近、食堂内にはソファが置いてあり、思い思いにくつろいで過ごすことができる。これから寒い季節には暖房が入り、加湿器も用意されている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外でも談話スペースを設けている。テレビ前や廊下にソファを置き、日向ぼっこや散歩・談話など仲の良いご利用者同士で過ごしていただけるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていた馴染みの家具や調度品・仏壇・ご本人様が作った作品を展示したり、趣味の物等取り入れ自由にご自分の部屋を使用していただいている。また、安全面も考慮し安全パーなども設置している。エアコンの風にも配慮し苦手な方は直接あたらないよう配慮している。	個室は全て畳仕様となっている。エアコンと洗面台、収納用木箱、靴箱が初めから用意されている。室内は本人の暮らしに合わせて家具を持ち込んだり、移動したりして模様替えされている。玄関から室内に入る部分にはカーテンが設えてあり、プライバシーが守られている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様ひとりひとりの生活スペースを把握し、各々の部屋の表示をしっかりと目立つよう表示している。個々の動線上に事故に繋がるものがないように配慮している。また、居室などにおいても事故を防ぐための環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の介護理念を掲げている。スタッフは毎日申し送り時に介護理念を暗唱している。また、理念を元に昨日実施した利用者様との関わりを報告してもらっている。スタッフ同士良い刺激となっており、理念を意識しながら日常業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人として毎年開催する夏祭りや地域の施設や病院と協力して定期的開催しているサロンでは沢山の地域の方にお越しいただいている。敬老会には近隣の保育園や幼稚園の園児の来訪があり、歌や遊戯などでご利用者様と交流している。また、法人として地域の運動会に参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として介護相談センターを設け、地域の方が認知症を含めた高齢者介護全般について相談できる場を設けている。また、地域の施設や病院と協力して開催しているサロンでも相談を行えるようコーナーを設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の活動や取組、ご利用者様の状況について報告している。その中で、委員の方からのご意見やアドバイスをいただき、グループホームのサービスの向上へ繋げているが、ご家族様からの意見が少ないために発言しやすい雰囲気作りが必要だと感じている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの方に参加していただいている。事業所の状況を報告したり、地域の方の困った事例を相談している。施設の夏祭りや敬老会にも出席いただき日頃から交流を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設方針で身体拘束は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し、スタッフが閲覧できるようにしている。マニュアルは定期的に見直し、話し合いしている。施設内にて定期的に職員研修も行われており身体拘束について学ぶ場を設けている。日中、玄関の施錠は行っていない。居室施錠が必要なご利用者様にはご家族へ説明し同意を得て、ケアプランに反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	全スタッフは施設内の職員研修にて高齢者虐待防止について学ぶことができる。万が一、スタッフが虐待へと繋がる対応を発見した場合は迅速に対応している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフは施設内の研修において成年後見制度・日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けている。入居契約時には成年後見制度についてご説明を行っている。また、家族からの希望があれば、申請手続きに関して支援、協力をしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項・契約内容について読み合わせを行っている。一項目ずつ十分時間をとって説明を行っており、説明不足がないように配慮している。また、不安や疑問などがなければ確認している。長期にわたる利用での不安や料金改定の説明での疑問は、ご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なサービス担当者会議や運営推進会議などにて、ご本人様やご家族様から意見を聞く機会を設けている。また、面会時においてもコミュニケーションを取りながら要望がないかお聞きしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで職員が意見を述べる場を設けている。その他、希望に応じて意見を聴く機会を設け日頃より業務改善を図っている。また、年に一度職員に対しアンケートを実施しており意見や提案を聞く場を設けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職員と労務担当者が個別に面接する機会を設けている。日頃から職員がやりがいをもって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、個別面接にて決定しており年齢や性別などの制限は設けていない。また、職員ひとりひとりの能力や経験に合わせ積極的に外部研修に参加する機会を設けている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の研修にて、人権・接遇等に関する勉強会を定期的開催している。また、日頃よりご利用者様に対する言葉遣い等について気を配るよう促している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員勉強会や施設内で委員会を開催している。職員の能力や経験に合わせてグループホーム内での係や委員会の担当を任せている。また、外部研修に参加し、スキルアップの機会を提供している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修に参加させたり、近隣の病院や施設と協力して開催しているサロンにて同業者と交流する機会を設けている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず面談を行い、ご本人様より希望や不安についてお聞きしている。また、不安については、特に注意し声かけ方法など配慮している。サービスを安心して開始していただけるよう信頼関係構築に努めており、スタッフ間でも情報交換を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族様と面談を行い、不安や要望などお聞きしている。ご家族様とよく話し合いを行い、信頼関係の構築に努めるとともに、当施設がどのような施設であるかを理解していただくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご本人様やご家族様との面談の中で、どのような生活を望んでいるのかを把握するよう努めている。その中で、当施設で提供可能なサービスについて説明し納得された上でご入居いただいている。ご本人様やご家族様の希望するサービスが提供できない場合は、他の事業所を紹介する場合があります。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご本人様の力を借りながら、食器拭きや野菜の皮むき、洗濯物たたみなどお願ひし共に生活している。スタッフはご本人様の思いを尊重しながらひとりひとりに合った個々の力を大切に支援するよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感謝の日会や敬老会などの行事時に、ご家族様を招待したり、可能な場合はご家族様に外出支援への参加お願ひしている。面会時や毎月担当者からご家族様へご利用者様の近況報告や写真を送ったりしてご家族様との情報共有に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や行きつけの美容室などについて、ご本人様やご家族様の希望を優先している。また、外出の希望があれば実現できるように対応している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、日頃からご利用者様の人間関係を把握し、ご利用者様間のトラブルを未然に防ぐように努めている。また、レクリエーションなどを通してご利用者様同士で応援などの声かけが行えるような雰囲気作りをしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のために退所された方で、併設された特養への入所希望があればご案内している。特養へ入所された方については、仲の良かったご利用者様とスタッフが特養を尋ねたりして交流を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフは、日頃よりご本人様やご家族様との会話の中で希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が送れるように配慮している。また、外出の希望がある場合は、ご家族様と相談し個別支援にて対応している。把握が困難な方の場合は、ご家族様からの情報や入居前のサービス事業所からも情報を得ている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフはご本人様やご家族様からの情報やご利用者様同士の会話を参考にすると共に、日頃よりご利用者様ひとりひとりの生活歴や趣味・好みなどの情報収集に努めている。また、スタッフ同士、情報共有に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは日頃よりひとりひとりの生活リズムを理解し尊重している。毎日のバイタル測定や細かな表情を気かけ様子観察を行っている。体調変化がある場合は、主治医へ相談しており連携を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは、計画作成担当者や担当スタッフだけでなく他のスタッフからも幅広く意見を募り行っている。意見をもとに担当者会議にてご本人様やご家族様の意見を受け、ご本人様が安全にかつ安心して希望する生活が送れるための介護計画の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、キーワードを基に日常の様子など細かい点について、ご本人様の言葉も記入している。また、記録だけでは伝わらない点については、毎日申し送りを行い、口頭にて伝達している。問題点があればその都度話し合いを行い、解決するようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に面会時間を設けているが、時間外の面会についても柔軟に対応している。ご家族の希望により外出の付添として他事業所による外出支援も取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の馴染みの病院や薬局を把握し、入居後も引き続き利用できるように支援している。入居したことにより地域との関係が途切れないようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、ご本人様やご家族様に意向を伺い希望を尊重している。それぞれの主治医と連携をとりながらご利用者様の健康を図っている。また、訪問歯科回診も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホーム内に看護師は配属されていないが、日々の状態で疑問に感じた場合や急変時の対応・感染症の予防など、必要な場合は併設の特養の看護師に相談し助言を受けている。また、スタッフは訪問診療のかかりつけ医の看護師と連携をとりひとりひとりの健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した場合、定期的に病院を訪れ看護師やソーシャルワーカーから話を聞き、治療の経過やご利用者様の状況などについて情報を得ている。また、スタッフは日頃の受診付添の中から医師や看護師との関係作りにも努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学・入居希望の問合せや入居契約時に施設で出来る事とできない事についてご本人様やご家族様に必ず説明し納得していただいている。重度化した場合は、主治医に相談し連携を強化すると共にスタッフ全員が情報を共有している。万が一、当施設で生活が続けられなくなった場合、他施設や病院と連携をとり受け入れ先を探している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは対応について理解している。施設内にて定期的研修があり学ぶ機会を設けている。各項目でマニュアルを作成し、定期的に見直しを行っている。感染対策用の備品は、すぐに取り出せる場所に置いており、点検をするように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害対策について施設内にて研修があり学ぶ機会を設けている。また、当グループホームにて火災訓練を実施している		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で声かけなどについて、個人の気持ちを尊重しプライバシーの確保に努めている。また、個人の資料はカギのかかるロッカーで保管している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様とのコミュニケーションをとりながら、ひとりひとりの想いを引き出すように努めている。スタッフはオープン・クローズドの質問をしながら、ご本人様が自己決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を考慮しながら、ご本人様の希望にできるだけ副えるように心がけている。また、各場面の担当を決め、コミュニケーションをとりながら、より細かな支援が行えるように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や身だしなみなどは、居室や別室をご利用していただいている。購入時は、ご本人様の使い慣れた化粧品を使用していただいている。美容室でのカットが難しい方は、スタッフが支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に野菜の下処理（皮むきやたねとりなど）や片づけなどを行っている。また、季節感を感じていただけるようメニューを工夫したり、個々に合わせたメニューや使いやすい食器を使用し食べやすさに考慮している。スタッフは、ご利用者様と一緒に食事をしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は不足しないように、毎食チェックし把握している。不足している場合などは、主治医に相談しながら補助食品やご本人様の好みに合わせ提供するよう努めている。個人によって水分制限のあるご利用者様はその方に合わせた量を把握し支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、介助を行っている。義歯については、就寝前にお預かりし洗浄を行っている。また、週1回の訪問歯科回診があり、相談しながら口腔内の清潔に努めている。また、義歯が外れやすい方などは歯科医と相談しポリグリブを使用し義歯が外れないように支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄習慣を把握し、ご利用者様がストレスなく排泄が行えるように声かけ、見守り、介助をしている。介助の際は、出来るだけ残存機能を活かし、自立に向けた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、スタッフ全員で確認している。便秘が続かないよう水や牛乳などの水分を多めに摂取していただくよう声かけしている。また、便秘が続いていた場合は、主治医に相談するなどして改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人様の体調を考慮しながら入浴を行っている。拒否がある場合は、声かけの方法や時間帯、スタッフの交代など工夫し入浴していただけるよう努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様も体調に考慮するとともに、希望に副って休憩していただいている。夜間不眠の訴えがあった場合は、傾聴を行いフロアにてスタッフとご一緒に過ごしていただいている。また、夜間の不眠が続き、ご本人様の不穏につながる場合は、主治医と連携をとり支援している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は、書面と口頭にて申し送りを行っている。また、変更の情報も共有するよう努めている。体調の変化には十分注意し、変化がみられた場合は主治医に相談し、薬の調整などを行っている。また、薬に対して拒否がある場合は、主治医や薬局へ相談し錠剤から粉砕へ変更するなどしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	片づけや野菜の下処理などの料理や散歩、歌など毎日の生活が退屈にならないように配慮している。また、体操・生花・陶芸などの教室を催し趣味活動を続けていただけよう支援している。役割として食器拭きや全体で使用するエプロンやタオルたみなども取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご友人と美容室へ出かけられたりされている。園内散歩は行っているが、ご家族が来園時に外出されている。また、ご家族の希望で他事業者による外出支援を取り入れている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお預かりしているが、ご本人様が希望された場合は、ご家族に紛失などの危険があることを説明し了解を得たうえでお金を所持していただいている。お金の認識が難しい方は、事故の危険もありご家族に説明しお預かりするようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ご家族様やご友人様に電話をかけていただいている。また、携帯電話をご使用の方については、使用時の支援を行っている。年始には年賀状を出していただくよう支援しているが、年始以外にもご家族やご友人の方からお手紙や贈り物が届いた際は、お礼の電話やお手紙をお出しいただけるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのディスプレイに季節感を取り入れて心地よく過ごしていただけるよう配慮している。また、テレビやCDの音量や室温、光など細やかな部分についてもストレスとならないように気を配っている。トイレは共用で気持ちよく使用できるように清掃にも力を入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外でも談話スペースを設けている。テレビ前や廊下にソファを置き、日向ぼっこや散歩・談話など仲の良いご利用者同士で過ごしていただけるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていた馴染みの家具や調度品・仏壇・ご本人様が作った作品を展示したり、趣味の物等取り入れ自由にご自分の部屋を使用していただいている。また、安全面も考慮し安全バーなども設置している。エアコンの風にも配慮し苦手な方は直接あたらないよう配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様ひとりひとりの生活スペースを把握し、各々の部屋の表示をしっかりと目立つよう表示している。個々の動線上に事故に繋がるものがないように配慮している。また、居室などにおいても事故を防ぐための環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		